

広島・土居^{どい}遺跡

- 1 所在地 広島県東広島市八本松町飯田
- 2 調査期間 一九九九年(平11) 五月～六月
- 3 発掘機関 (財)東広島市教育文化振興事業団
- 4 調査担当者 吉野健志
- 5 遺跡の種類 城館跡
- 6 遺跡の年代 戦国時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

東広島市は、広島県南部のほぼ中央、標高二〇〇～三〇〇mの賀茂台地上に位置しており、安芸地域最大の平野部を持つ。



(海田市)

土居遺跡は、盆地の西端に程近い低丘陵の東側裾部に位置している。一六世紀前半から半ばにかけての平城跡で、東西二〇〇m、南北一五〇mの範囲に広がる。保育所建設のため、遺跡の一部五〇〇m²を調査した。遺構は、幅一〇・七m深

さ三mの堀であるSD一、土橋状遺構、奥行二m幅八m以上の樹形状遺構、土塁痕跡、水溜状遺構、井戸などである。

遺物は、堀SD一の中から、土鍋を中心に多量に出土した。木製品も堀や井戸から漆器椀や折敷、鉄タガのはまった柄杓など、多様な遺物が出土した。木簡は堀SD一から二点が出土した。

8 木簡の积文・内容

- (1) □月吉辰
大般若経家門
×
〔斗カ〕
〔花押〕。
- (2) 〔斗カ〕
〔花押〕。

(157)×63×5 019

148×26×3 011



(1)



(2)

(1)は、上部を欠損しており全体の形状は不明。「家門」の字の下は約5mmの間隔を開けて切断されており切断面は整っている。現状では下に字が続くとは考えにくい、文意が取り難いことから、下に続く可能性も残される。梵字は、上部が欠失しているが、大日如来報身真言を示す「阿彌多婆佛」(アビラウンケン)と記されているのであろう。

(2)は、上部がやや斜めに切断されているが、ほぼ長方形の木簡である。下方左側に穿孔が一カ所ある。墨書は全体に不鮮明で判別しにくい。花押も判読しにくい、全体に一六世紀の安芸国で見られる武家風の花押の形態に似ており、花押と判断された。

(吉野健志)

木簡研究 第一七号

巻頭言——書は言を尽くさず、言は意を尽くさず——

佐藤宗諱

一九九四年出土の木簡

概要 平城京跡 平城京跡左京三条一坊十二坪 平城京跡 平城京跡左京七条一坊十六坪 東大寺 奈良女子大学構内遺跡 高安城関連遺跡 藤原宮跡 藤原京跡左京七条一坊東南坪 藤原京跡左京十一坊一坊 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 平安京跡左京四坊一坊一町 平安京跡左京八坊三坊十四町 平安京跡右京八坊二坊二町 慈照寺境内 客坊山遺跡群 大坂城跡 袴狭遺跡 見蔵岡遺跡 有年原・田中遺跡 梶子北遺跡 曲金北遺跡 伊興遺跡 錦糸町駅北口遺跡 宮町遺跡 前橋城遺跡 荒田目条里遺跡 矢玉遺跡 山王遺跡 大坪遺跡 中尊寺境内金剛院 花立Ⅱ遺跡 志羅山遺跡 福井城跡 大友西遺跡 石名田木舟遺跡(1) 石名田木舟遺跡(2) 北高木遺跡 水橋荒町遺跡 山木戸遺跡 上郷遺跡 陰田小大田遺跡 米子城跡七遺跡 三田谷Ⅰ遺跡 吉川元春館跡 田村遺跡群 姉川城跡 中園遺跡Ⅲ区 一九七七年以前出土の木簡(一七)

平城京跡左京二条二坊六坪

刻齒簡牘初探——漢簡形態論のために——

榎山 明

新潟特別研究集会の記録

国史跡指定答申なった八幡林官衙遺跡……小林昌一、八幡林遺跡の時代的変遷……田中靖、古代越後平野の環境・交通・官衙……坂井秀弥、封蔵木簡考……佐藤信、八幡林遺跡木簡と地方官衙論……平川南、討論のまとめ 書評 鬼頭清明著『古代木簡の基礎的研究』 今津勝紀

彙報

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円